

北斗市地域公共交通活性化協議会 参考資料

資料1 第1回協議会での意見等整理

資料2 デマンド交通イメージ図

第 1 回協議会での意見等整理

検討の視点	第 1 回協議会での意見要旨	意見等に関する交通等の現状	意見等に関する市の考え方	意見等に関するアンケート結果からの考察	第 2 回協議会意見
1 まちづくりを視野に入れた検討	①地元商店街やそこで開催されるイベントに足を運んでもらうため、公共交通とどのように結びつけるのか。	①いさりび鉄道・バス・ハイヤーが通常運行。	①身近な商店街への買い物で利便性の高い交通が必要。(目的地としての魅力を高めることで交通ニーズも高まる。)	①外出目的を買い物と回答した人は全体の約 3 割おり、その内公共交通(バス・鉄道・ハイヤー)をよく利用すると答えた人は約 2 割、それ以外の大多数は自家用車。	
2 交通弱者等を優先した検討	②既存公共交通に接続するデマンド方式の交通手段が必要では。 ③病院や商店街までの公共交通を利用した行き方を周知しては。 ④既存公共交通の利用の仕方を改めて周知しては。 ⑤鉄道駅の階段を解消できれば。	③いさりび鉄道・バス・ハイヤーが通常運行。 ⑤市内 7 駅のうち、清川口駅と東久根別駅以外にはホーム階段設置。	②デマンド交通の利便性に注目している。 ③④利用者目線による周知と工夫が必要。 ⑤清川口駅など利便性の高い駅もあることを周知するなど、既存施設の効果的な活用へと誘導することも必要。	②デマンド交通の料金が安ければバスや鉄道への乗継利用に魅力を感じている方は 4 割以上。	
3 既存の公共交通との共存・活かし方に考慮した検討	⑥事業運営する側の乗務員の高齢化、人手不足。 ⑦既存路線まで接続できる交通手段が必要では。	⑥交通事業者側で運転体験や説明会等を実施し、人材確保に努めている。 ⑦「乗り継ぎ」が一般的な方法ではない現状にある。	⑦移動目的によっては、幹線(路線バス、鉄道)への接続(乗り継ぎ)という意識への誘導と乗り継ぎ利用の円滑化を図る環境整備が必要。	⑦幹線(路線バス、鉄道)をもっと利用しやすくするために必要なこととして、「乗り換えを便利にする」「家からのバス停、鉄道駅までの移動手段の確保」と答えた方が全体の 2 割程度で、年代の差もあまり無い。	
4 持続可能な公共交通の検討	⑧既存公共交通機関の横の繋がりを考えてみては。 ⑨公共交通を利用した人へのクーポン発行といった還元策、独自に取り組みを検討すべきでは。		⑧公共交通の利用における効果的な付加価値(利便性)の検討が必要。 ⑨先進地の事例等を参考に今後検討が必要。	⑧公共交通間の乗り継ぎ時間の許容範囲について、「10分程度」「20分程度」と答えた方はそれぞれ 4 割程度、高齢者になるほどより長い時間許容できる傾向。	

検討の視点	第1回協議会での意見要旨	意見等に関する交通等の現状	意見等に関する市の考え方	意見等に関するアンケート結果からの考察	第2回協議会意見
5 それぞれの地域にふさわしい公共交通の検討	<p>⑩通勤・通学利用者が多いことに着目した取り組みを考えるべきでは。</p> <p>⑪交通弱者をどのように考えるか、フレキシブルに考えなければならない。 (高齢者、障がい者、妊婦…etc)</p> <p>⑫既存公共交通機関のメリット、デメリット、抱える問題点を整理すべきでは。</p>	⑫議案2、3ページ参照	⑩⑪検討するにあたり対象者の範囲をどう設定すべきかは意見の分かれるところと考えているが、スタート時点では限定的な対象として進めることが現実的であると考えている。	⑩⑪普段外出される目的のうち、通勤・通学と答えた方が全体の約3割。郵送調査に限ると約4割。	
6 その他	<p>⑬対面式アンケートの対象者の抽出基準は。</p> <p>⑭アンケート結果は慎重に取り扱うべき。</p> <p>⑮住民側では、新たな交通を必要だと切羽詰まっている要望は少ないのでは。</p> <p>⑯先進的事例やコンサルを入れた統計的な調査に基づくまちづくりと既存事業者の融合的な議論を行っては。</p> <p>⑰交通手段によっては、税金の無駄遣いを感じている。</p> <p>⑱新たな交通手段を用意する上では、地域に合うかどうか、検討を十分にすべき。</p> <p>⑲乗合タクシーの運行については、一般のハイタクへの影響も考慮すべきでは。</p> <p>⑳乗合タクシーの良い部分も悪い部分も把握した上で検討すべき。</p>		<p>⑳利用意向あるものの、実際どの程度利用するかについては、実証運行を通じて検証が必要。</p> <p>㉑現状では委員からの様々な意見等を参考に新たな交通について検討を進め、将来的に網計画策定など更に詳細な議論を行う上では、必要に応じコンサル等の活用検討は否定するものではない。</p> <p>㉒既存交通における利用状況を的確に捉え、より効率的・効果的な運行となるよう検討を進める。</p> <p>㉓～㉕高齢者や交通不便地等の交通弱者対策を最優先に検討を進めるため、例としてデマンド交通等の利用意向を確認。</p> <p>㉖㉗既存の公共交通との共存をどのように具体化するかは課題であり議論を深める必要がある。多くの市民が公共交通を視野に入れていただくことで乗客の奪い合いとならないよう、利用拡大に繋がる、本市にふさわしい公共交通を検討する。</p>	<p>⑬対面調査の対象者は、買い物、通院、温泉(余暇活動)など日常生活において、公共交通の利用実態やニーズを調査したもので、平日の朝から夕方までの時間帯の調査だったことから、結果として高齢者が多くなったが、対象者の年齢を意識して調査したものではない。</p> <p>⑱㉘第2次総合計画策定時のアンケートにおいても、交通機関の利便性については他の項目より評価が低い状況であり、その点からも既存交通を含め、新たな公共交通について検討する必要がある。</p>	

デマンド交通イメージ図

